

---

# 日曜日

ぼてと

---

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

日曜日

### 【Zマーク】

N4845A

### 【作者名】

ぽてと

### 【あらすじ】

仕事に追われ、疲れきった男が、ただ休日珍しく早く目が覚めた時の話。

今日は久し振りの休日だ。

何をしようと考えてる間に気付くと夕方になつていていたといつ今までの休日とは少し違う。

最近は仕事に追われ疲れが溜まつていたせいか、昨夜は仕事から帰るなりすぐに眠つた。

そのお蔭で今日はすつきりと目覚めたのだ。

こんなに気持ちのいい朝は、何年振りだろう……：

彼は、久し振りの気持ちのいい目覚めに加え、眩しい位の晴天に気分が高揚していた。

彼はシャワーを浴びて、服を着替え、出掛ける事にした。いつもの氣急さや、焦りは無かつた。

ただの休日だというのに、こんなに気分が高揚しているなんて馬鹿らしいと一瞬思つたが、それを止める事は出来なかつた。

先ず、彼はいつも乗る筈の車には見向きもせず、駐車場を通り越した。

わりと田舎な彼の家周辺は、晴天を更に映えさせた。

何処へ行こうというあてもなく、ゆっくりと20分ぐらい進むと、小さな喫茶店が目にに入った。

(そういえば朝食がまだだつたな。)

小さな喫茶店に入った。

カラソカラソ

「いらっしゃいませ。」

夫婦だろうか。二人の老人が笑顔で迎える。

少し温かい気持ちになりながら、トーストを食べる。

もちろん店を出る時も老夫婦は笑顔で見送った。30分程で店を出て、何処へ行こうかと考えていると、読みたかった本を暫く放つたらかしにしていたのを思い出した。

(図書館に行こうー)

彼は足を速めて近くの図書館へと向かった。

目的の本が見つかると、2時間程で読み終えた。

(図書館は何て安らぐ場所だろ？。いつもの雑音や、気になる時間も今日は関係がない。)

図書館を出てふと時計を見ると、もう1-2時だ。

コンビニで昼食を買うと、彼は電車に乗り込んだ。

窓から見える景色を少しの時間楽しみ、電車を降りる。

彼は2年前に住んでいた町へやつてきた。懐かしさを覚えたが、やはりかなり変わってしまった。

(この大好きだった町も、変わってしまった。僕と同じだな…)

(あの場所も変わってしまっただろ？。僕がいつも支えてもらつたあの丘。)

しかしそこは何も変わっていなかつた。彼を待つていたかのように、一面にはきれいな花が咲いている。

(「こは変わつていなかつた。僕を待つていてくれたのか？こんなに変わつてしまつた僕を、まだ見捨ててはいなかつたのか？」)

少し、涙を流した。

彼はとても寂しかつた。仕事ばかりの毎日で、大切なるものもないし、

自分がいなくなつても何も変わらないだらうと思つていた。こんな日が一生続くのだろう、と。

しかしその丘は彼を待つていた。

（いつも助けてくれてありがとう。僕は勘違いをしていた。自分なんか、と卑下しては、繰り返し繰り返し涙を流していたんだ。僕は自分から逃げていた。僕にだって何か出来る筈だ）

彼は子供に戻つたように泣いた。恥ずかしさや、気遣う事などこには無かった。

（もう僕は大丈夫だわ。何かを探すのは、これからでも遅くない筈だ。）

（明日からは、退屈な仕事も少しばら楽しめるかもしねない）

なんて事を考へながら彼は、ゆっくりと晩飯を食べべた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4845a/>

---

日曜日

2011年1月15日21時36分発行